

ティーチング・ステートメント

所属 診療放射線学科

名前 佐藤 和宏

作成日 2023.03.27

【責任】

診療放射線学科に所属し、医用画像工学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる担当科目は、診療画像技術学、画像解剖学演習で、その他に臨床経験を生かして学内外の活動を行っている。卒業研究を含め、主にCT画像を用いた医用画像工学に関する研究を行っている。

【理念】

2つの理念を挙げる。1つは基礎知識を体系的に修得し、応用力を身につけさせたい。臨床業務では、知識と経験から身につけたスキルを患者ごとに適正化して提供することが求められる。そのためには、基礎知識を体系的に身につけることが必要である。知識を体系的に修得することで応用力が備わり、臨床業務を効率的に進めることができる。また、今後の自身のスキルアップのためにも、応用力は必須と考えている。

もう1つは研究力の重要性、即ち臨床に直結する実学研究に加えて基礎研究も、研究の継続が臨床業務に役立つことを理解して欲しい。いずれの研究も、最終的には患者さんの利益になるものである。患者さんによりよい医療を提供するためには理論的思考と実践力が必要であり、いずれも研究を通して培われる。研究力を身につけることで上述した応用力も備わり、その結果として臨床業務の質が改善されるはずである。

【方針・方法】

- 教科書の知識と臨床の知識を結びつける。
 - 講義間の繋がりを学生に意識させながら講義を進める。
 - 科目間、または講義と学生実験で共通しそうな内容があるときは、過去の授業を思い出させながら講義を進める。
 - 国家試験問題を解説しながら講義を進める。
 - 国試問題はゴールではなく通過点であることを意識させた上で、臨床にどう役立つかを補足しながら講義を進める。
 - 教科書の内容を補足するパワーポイント資料を配布する。
 - 教科書を噛み砕いて説明するため、理解度を高めるために教科書の内容を補足するパワーポイント資料を作成し、配布する。
- 講義内容を知識として確実に定着させる。
 - 講義中に学生の理解度や反応を伺う。
 - 理解していない学生、講義に集中していない学生が見受けられたときは、平易な言葉を使って説明したり、あえて講義と無関係の話をしたりして、学生の反応を伺いながら講義を進める。
 - 毎回の講義後に、講義内容を包括する課題を課し、学生の理解度を確認する。
 - 講義後に、講義の内容を全体的に振り返るレポート課題を課し、知識の定着を図る。
 - 実験を通して理論や現象を理解させる。

- 机上論を目の前で再現することにより、理論の本質的な理解を促す。
- 質問に来た学生には、質問に対する答えに加えてさらに発展的な知識を与えるとともに、担当外、専門外の講義の質問にも可能な限り対応する。
 - 質問に来る学生の自発性を確認した上で質問に対する答えに加え、付随する知識もあたえ、知識の幅を広げる。質問内容が専門外であっても無碍に断らず、回答への足がかりになるものを与える。
- 基礎研究と実学研究の両方の重要性を伝える。
 - 臨床現場における研究の必要性を伝える。
 - 臨床業務の改善、質の向上のために、研究を継続しなければならないことを伝える。
 - ライセンス取得後の様々な将来像を例示する。
 - 放射線技師免許取得後の様々な可能性を示し、先々では必ず研究が必要になることを説明する。

【成果・評価】

- 講義内容を臨床と結びつけることで、講義に対する学生の興味が増した。
 - 授業アンケートの結果より
- 実験を通して画質評価指標を理解することで、画質を適切に評価できるようになった。
 - 実験レポートより
- 病院への就職だけでなく、大学院進学や大手企業への就職など様々な進路を考えるようになった。
 - 学生との面談より
- 科目間の繋がりを意識させることで、効率的な国家試験対策が可能になった。
 - 高い合格率
- 2022年度国家試験合格率：98%

【目標】

短期（3年前期まで）

- 講義内容と臨床業務を結びつけながら他者に説明できるように、基礎知識を修得させる。

長期

- 研究力と応用力を備え、勤務後5年から10年で自立した技師として活躍できる人材を育成する。